



ICT 通信 6月号



今月号は手術室での感染予防についてお話します。

当院では、CDC ガイドライン（米国疾病予防管理センター）に沿って感染予防を実施しています。

POINT 1 手術時手洗い

手術をする前の手洗いとしては、爪や指先をディスポスポンジで手指消毒薬を用いて洗い、手首、肘関節上部までもみ洗いをしています。滅菌タオルを使用して水分を拭き取り最後に擦式アルコールで乾燥するまで擦りこんでいきます。

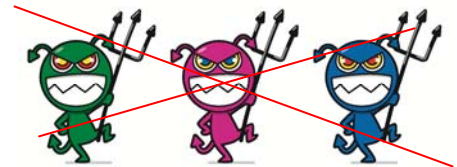
POINT 2 2重手袋

手術の時は手袋が破けたりすると、患者・医療従事者双方の感染リスクになる可能性があるため、2重手袋が推奨されています。手袋を2重に着ける場合は内側に濃い色とし、外側を淡い色にすると手術中の手袋の破損に早く気づくことができます。



POINT 3 予防抗菌薬の使用

一般に風邪や熱が出てから抗生物質を飲んだり、点滴で投与したりしますが、手術時は、感染を予防するために、手術開始前と開始後 3 時間、6 時間の抗生物質の投与を実施しています。



POINT 4 正常体温の維持

手術中の体温が低いと手術後感染の増加など多くの合併症の要因となります。心臓の手術では体温をあえて低下させて実施する手術もありますが、手術終了前までには正常の体温を維持できるように体温管理をしています。

手術部位感染症を予防するにはそのほかに禁煙する、血糖値をコントロールする、栄養状態を改善しておくなど患者さん側の要因もたくさんあります。要因があれば予防策をして感染を起こさないようにしましょう